

## 平成 27 年度健康実態調査の結果について（概要）

### 1. 調査の目的

平成 24 年 9 月に「カネミ油症患者に関する施策の総合的な推進に関する法律」が施行され、「カネミ油症患者に関する施策の推進に関する基本的な指針」（厚生労働省・農林水産省告示）に基づき、カネミ油症患者の生活習慣、病状、治療内容等について把握し、カネミ油症に関する調査研究を更に推進することを目的とする。

### 2. 調査期間

平成 27 年 4 月～6 月末

### 3. 調査対象及び回答者

各都道府県で把握している 1,630 人（前年 1,651 人）の認定患者（平成 27 年 3 月 31 日時点の推計生存認定患者）のうち、死亡や所在不明の方、非協力の意向を示された方を除く 1,443 人（前年 1,437 人）に調査にご協力頂いた。

### 4. 調査項目

全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）で、カネミ油症患者の意見を聞きつつ決定した生活習慣、健康状態や悩み、治療状況、これまでにかかったことのある病気・症状などの項目を調査した。

### 5. 調査結果の活用

調査結果については、アンケートに基づく調査の医学的・科学的解釈の限界に留意しつつ、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）において、過去の検診結果等と併せてより詳細な解析を行い、翌年度以降の健康実態調査項目などカネミ油症に関する調査研究に活用される予定である。

### 6. 調査結果の概要

#### (1) 性別

・男性 687 人（前年 687 人）、女性 756 人（前年 750 人）

#### (2) 年齢

・平均年齢は 64.4 歳（前年 63.7 歳）

男性 63.1 歳（前年 62.4 歳）、女性 65.5 歳（前年 64.9 歳）

・男性は、「55～59 歳」の方が 17.5%（前年 16.9%）と最も多く、次いで、「50～54 歳」が 16.4%（前年 16.6%）、「60～64 歳」が 13.7%（前年 12.2%）等の順であった。

- ・女性は、「55～59 歳」の方が 15.7%（前年 14.1%）と最も多く、次いで、「50～54 歳」が 14.4%（前年 16.0%）、「60～64 歳」が 13.0%（前年 12.0%）等の順であった。

### (3) 生活習慣について

- ・1日の歩行時間についてみると、「90分以上」と回答した方が 30.1%（前年 31.2%）と最も多く、次いで、「30分～60分未満」が 25.3%（前年 25.7%）、「30分未満」が 24.7%（前年 23.9%）等の順であった。
- ・運動(スポーツ)頻度についてみると、「ほとんどしていない」と回答した方が 47.2%（前年 47.9%）と最も多く、次いで、「週2～4回程度」が 19.3%（前年 17.7%）、「ほぼ毎日」が 14.8%（前年 14.6%）、「週1回程度」が 13.4%（前年 14.6%）等の順であった。
- ・飲酒頻度についてみると、男性では「ほぼ毎日飲む」と回答した方が 31.1%（前年 32.2%）と最も多く、女性では「飲まない」と回答した方が 70.5%（前年 69.2%）と最も多かった。
- ・喫煙状況についてみると、「吸わない」と回答した方が男性 37.8%（前年 38.7%）、女性 86.1%（前年 85.6%）ともに最も多かった。
- ・睡眠時間についてみると、「6時間以上7時間未満」と回答した方が 33.7%（前年 35.0%）と最も多く、次いで、「5時間以上6時間未満」が 25.9%（前年 25.2%）、「7時間以上8時間未満」が 17.3%（前年 17.4%）等の順であった。
- ・睡眠の充足状況についてみると、「まあまあとれている」と回答した方が 47.5%と多く、次いで、「あまりとれていない」が 32.9%、「充分とれている」が 16.0%等の順であった。
- ・労働時間についてみると、「4時間未満」と回答した方が 28.8%（前年 30.3%）と最も多く、次いで「8時間以上9時間未満」が 13.5%（前年 13.0%）、「10時間以上」が 13.0%（前年 13.4%）等の順であった。
- ・常用しているサプリメント・健康食品・漢方薬の有無についてみると、26.7%（前年 28.8%）が「ある」と回答した。

### (4) 健康・悩み・ストレスについて

- ・日常生活での悩みやストレスについて、「ある」と回答した方は 76.2%（前年 79.5%）であった。また、「ある」と回答した 1,100 人（前年 1,142 人）を対象に、悩みやストレスの最も気になる原因（1つ）を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した方が 354 人（前年 372 人）、32.2%（前年 32.6%）と最も多かった。

### (5) 介護や日常生活動作の状況について

- ・病院や診療所への入院、介護施設への入所状況についてみると、5.8%（前年 5.2%）の方が入院中若しくは入所中であった。
- ・要介護認定の状況についてみると、40歳未満の回答者を除いた 1,439 人（前年 1,431 人）、男性 684 人（前年 683 人）、女性 755 人（前年 748 人）のうち、11.3%の 163 人（前年 175 人）、男性 46 人（前年 53 人）、女性 117 人（前年 122 人）の方が要介護認定を受けていた。

(6) この 1 年間の治療状況について

- ・現在の受診頻度についてみると、「毎月 1～3 回程度」が 44.5%（前年 45.0%）と最も多く、次いで「数か月に 1 回程度」が 25.5%（前年 26.6%）等の順であった。
- ・医師の処方により、継続して投薬を受けていると回答した方は、951 人（65.9%）で、男性 428 人（62.3%）、女性 523 人（69.2%）であった。

(7) 油症患者受療券の所持について

- ・油症券の所持についてみると、所持していると回答した方は 904 人（62.6%）で、男性 418 人（60.8%）、女性 486 人（64.3%）であった。
- ・928 人（前年 1007 人）、64.3%（前年 70.1%）が、この 1 年間、油症券を使用せずに受診した経験があり、うち 201 人（前年 263 人）、21.7%（前年 26.1%）が「油症券の使用を希望する医療機関がある」と回答した。

(8) 油症検診について

- ・油症検診の昨年度の受診状況についてみると、受診したと回答した方は、574 人（39.8%）であった。また、受診していないと回答した 848 人（58.8%）を対象に、受診しなかった理由を質問したところ、「仕事などで都合がつかなかったから」と回答した方が 305 人（36.0%）と最も多かった。

(9) 相談体制について

- ・油症相談員や都道府県の相談窓口への相談状況についてみると、相談したことがあると回答した方は、230 人（15.9%）であった。また、相談したことがないと回答した 1,178 人（81.6%）を対象に、利用しなかった理由を質問したところ、「特に相談することがないから」と回答した方が 691 人（58.7%）と最も多かった。

(10) これまでにかかったことのある病気・症状

(ア) 今回初めて回答する方（43 人）

- ・これまでにかかった悪性腫瘍（がん）については、「大腸がん」4 人（50.0%）が最も多く、その他「胃がん」「前立腺がん」「肺がん」「乳がん」「肝臓がん」がそれぞれ 1 人（12.5%）であった。
- ・これまでにかかった脳・精神・神経の病気・症状については、医療機関で治療中の中で「頭痛」5 人（11.6%）が最も多く、次いで「神経痛」4 人（9.3%）の順であった。医療機関での治療をへて治癒した症状は「頭重」「神経痛」「躁うつ病」「認知症」「かっとなりやすい・短気」がそれぞれ 1 人（2.3%）であった。症状はあるが治療していない方は「頭痛」「もの忘れ」がそれぞれ 7 人（16.3%）、「頭重」「かっとなりやすい・短気」がそれぞれ 5 人（11.6%）の順であった。

- ・これまでかかった自律神経系の症状については、医療機関で治療中の中では「不眠症」2人（4.7%）が回答にあがった。医療機関での治療をへて治癒した症状では「不安神経症」1人（2.3%）が回答にあがった。症状はあるが治療していない方では「不眠」6人（14.0%）と最も多く、「起立性低血压」「汗が出にくい」「自律神経失調症」がそれぞれ2人（4.7%）と次いで多かった。

(イ)過去に回答したことがある方（1,400人）

- ・前回回答後にかかった脳・精神・神経の病気・症状については、医療機関で治療中の中で「頭痛」145人（10.4%）が最も多く、次いで「神経痛」111人（7.9%）の順であった。医療機関での治療をへて治癒した症状は「頭痛」が30人（2.1%）、「神経痛」が16人（1.1%）であった。症状はあるが治療していない方では「頭痛」が229人（16.4%）、「もの忘れ」208人（14.9%）の順であった。
- ・前回回答後にかかった自律神経系の症状については、医療機関で治療中の中で「不眠」178人（12.7%）が最も多く、次いで「自律神経失調症」62人（4.4%）の順であった。医療機関での治療をへて治癒した症状では「自律神経失調症」23人（1.6%）、「過敏性腸症候群」「不眠」がそれぞれ14人（1.0%）であった。症状はあるが治療していない方では「不眠」131人（9.4%）と最も多く、「起立性低血压」101人（7.2%）が次いで多かった。

※ (ア)については、回答時までにかかったすべての病気等の状況を、(イ)については平成25年度又は平成26年度調査のうち、直近の回答以降にかかった病気等の状況を、それぞれ回答している。

(11) 自由記載欄について

本調査では、「これまでの症状や病気について、書ききれなかったことや、特に研究してもらいたいこと、要望など」について自由記入欄を設けたところ、290人（前年306人）から回答があった。

※主な記載内容

- ・自分、家族の健康に関する不安、生活上のストレス等について 160件（前年235件）
- ・職業（仕事）に関する苦勞について 3件（前年7件）
- ・経済的な苦勞について 13件（前年6件）
- ・治療法の研究開発への要望、期待 39件（前年29件）
- ・病院、医師、検診に関する要望 41件（前年12件）
- ・行政機関に対する要望 38件（前年28件）
- ・カネミ倉庫に対する要望 4件（前年5件）
- ・その他 8件（前年35件）